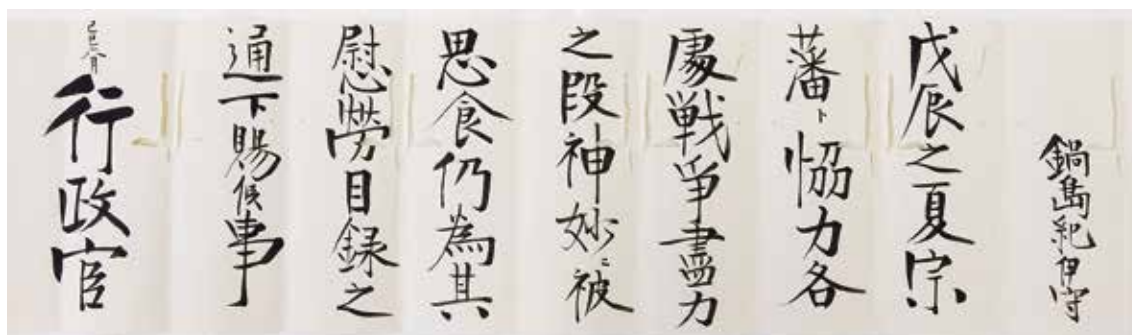


## 貴重書紹介

### 小城鍋島文庫「行政官達(戊辰軍功賞典につき)」



#### 解説

慶応4年(1868)正月3日、鳥羽・伏見の戦いが勃発した。翌年5月の箱館戦争終結まで続いた戊辰戦争で、佐賀藩は新政府軍として戦い、上野戦争や会津戦争で藩所有の最新兵器アームストロング砲が威力を発揮したことはよく知られている。

支藩である小城藩に、最初に本藩から出兵準備が指示されたのは、閏4月15日だった。横浜や京都での異変に備えるのが目的だった。だが実際に出兵を命じられたのは5月17日で、出兵の目的も変わっていた。5月7日に、藩主鍋島直大は新政府から下総・下野の鎮撫を命じられ、旧幕臣脱走兵などにより治安が安定しない北関東の鎮圧を任されていた。小城藩は、その鎮圧のために多久与兵衛(親類同格)・鍋島監物(家老)・鍋島左馬助(同)ら本藩重臣の軍団とともに出兵を求められたのである。

ところが、横浜・京都から国許へ戻った藩士の情報により、小城藩の出兵は一旦見合わせとなった。その内情はよく分からないが、次に出兵が命じられたのは7月18日で、今度の目的は東北戦争への出兵だった。小城藩は、刻々と変化する戦況と本藩の出兵状況の影響を受け、数度の計画変更を経てようやく出兵することとなった。

8月11日の夜、藩兵420人・小荷駄方2人・足付夫丸10人が甲子丸に、藩兵280人・小荷駄1人がチャーターした英国船に乗って久原(伊万里市山代町)を启航した。

8月21日に秋田藩領船川港に到着した小城藩兵は、24日に新政府側の秋田城下に入った。小城藩兵は、本藩や秋田藩兵とともに、秋田藩領に進撃してくる奥羽越列藩同盟側の盛岡藩兵と戦闘を繰り広げた。新政府軍の攻勢に押された盛岡藩は、9月22日に兵を撤退させ、24日に降伏した。10月10日、小城藩兵は参謀前山清一郎(佐賀藩士)に率いられ盛岡城を接收した。

この小城藩兵の活躍に対して、新政府からは翌明治2年6月2日に、金5000両の賞典金が藩主鍋島紀伊守直虎へ下賜された。本史料は、この時の通達書である。その文言には「戊辰之夏宗藩ト協力、各処戦争尽力之段神妙」とあるが、多額の戦費や戦死した兵士の命の「対価」としてこの賞典金はどのように位置付けられるだろうか。

(地域学歴史文化研究センター 吉岡誠也)